国際ロータリークラブ第 2730 地区　日南ロータリークラブ

週　　報

例会日　毎週水曜日　12：30～　例会場　ホテルシーズン日南
住所　　日南市園田 3-11-1　TEL　0987-22-5151　FAX0987-22-9588　　会長　竹井崇利

ロータリー財団月間

第 3181 回例会		№21	2018. 11. 28	雨
点鐘・国歌・ロータリーソング	12 時 30 分　「それでこそロータリー」			
四　つ　の　テ　ス　ト	斉藤篤史　君			
ゲ　　ス　　ト	水光正仁氏（宮崎アカデミーRC 会長・食の安全分析センター理事長） 齋藤奈々氏（(有) 松本花屋　代表取締役）			
ビ　ジ　タ　ー	水居　徹君（宮崎アカデミーRC 副幹事）			
例　会　行　事	ゲスト卓話			

会長時間

ポリオ・プラス

ポリオ（小児麻痺）は、かつて日本でも大流行したことがあります。私が小学校低学年の時に小児まひの子供がいたことを記憶しています。昭和 35 年頃日本での患者は 5,000 人を超えていました。昭和 55 年の 1 例を最後に新たな患者は出ていません。ポリオウイルスは手や足などにマヒを起こさせることがあります。呼吸ができなくなって死に至ることがあります。

1979 年、国際ロータリーは、フィリピンで生後 3 か月から 36 か月の子供約 600 万人に対して、5 か年計画のポリオ免疫活動を始めました。ロータリーがポリオ撲滅に取り組んだ第一歩です。そして 1985 年、国際ロータリーでは、ロータリー創設 80 周年に当たって「ポリオ・プラス計画」を発表しました。「プラス」という言葉は、ポリオ撲滅の取り組みが、子供の間に流行する他の 5 種類の伝染病（はしか、結核、ジフテリア、百日咳、破傷風）の予防接種にも広がるだろうという考え方を表していました。また、ポリオが常在する 3 か国（アフガニスタン、ナイジェリア、パキスタン）での感染抑止にとどまらず、ポリオがこの世からなくなった後にも、他の感染症との戦いを支えていくインフラと協力体制という遺産をも意味しています。

国際ロータリーは、世界ポリオ撲滅推進計画の一員として、世界保健機関、ユニセフ、米国疫病センター、各国政府やその他の団体と共同し、保険問題に取り組む世界で最も大規模な公共と民間の協力活動を行っています。この活動により、20 億人近くの子供たちがワクチンの投与を受け、小児麻痺から守られました。ロータリー財団は、2010 年から 2017 年の間に 7 億＄近いポリオ・プラス補助金を授与しています。今健康に暮らしている人で、1988 年以降、ロータリーなどのポリオ撲滅活動がなければポリオによって麻痺を発症していた人は 1740 万に達します。ポリオ・プラスほど大規模な運動で活躍した非政府組織は他にありません。

しかし、今常在国 3 か国の課題は、イスラム武装地域が支配しているということです。ポリオワクチンの接種プログラムが襲撃の標的になっています。最前線で活動していた 25 人以上のスタッフが、予防接種プログラムに関係していたという理由で殺されています。襲撃の背景には、外国人医療関係者への不信感に加え、欧米の科学や教育、医療がイスラムの教えに反するという考え方があります。

人類は完璧な武器であるワクチンを持っています。そのワクチンを投与すれば撲滅できるのです。それをさせない原因を作っているのが受益者自身の人類なのです。人類とはなんと因果な生き物なのでしょうか。しかし、私たちがこの活動を止めてしまったら、今まで、世界中で 30 年以上の時間と、100 億＄以上の人物、資金をかけて努力してきたことが水の泡となってしまします。さらに、新たな疫病対策に追われ、今後人類はポリオを永久に撲滅できないでしょう。

未来の子供たちに、人類は自らの手で「天然痘」「ポリオ」を撲滅しなければなりません。

幹事報告

1） RI 日本事務局より 12 月の適用ルート通知が届きました。1$＝112 円

委員会報告

例会運営委員会　前回例会のゲスト卓話についていたアンケート回収のお願いの件

スマイル

松尾浩治君　UMK「ぶら金」に出ました。

田島逸男君　先日の茜会では、晴天とメンバーに恵まれ、久しぶりに良いスコアーでラウンドでき、準優勝する事が出来ました。有難うございました。

黒岩久登君　先日の茜会で、メンバーと天候に恵まれ優勝する事が出来ました。お陰様でハンディが減りましたので、暫くは優勝できないと思いますが、本日は嬉しいスマイルをさせて頂きます。

石灘寛樹君　先週は担当だったのに休みましてすいません、丁度、相談会が重なりました。

例会行事

ゲスト卓話　水光正仁氏（宮崎アカデミーRC 会長・食の安全分析センター理事長）

本日は、今年の 7 月 29 日に認証伝達式を終えられた宮崎アカデミーRC の初代会長であり、一般社団法人食の安全分析センター理事長の水光正仁氏に食の安全分析についてお話頂きました。

食の機能性とは、第 1 次機能がエネルギー、第 2 次機能が感覚美味しさ、第 3 次機能が体調調節機能（免疫機能の増強、肥満防止、老化抑制など）だそうです。

ナチュラルキラー細胞（NK）は、ウイルス感染細胞や腫瘍細胞への障害活性を持ち、NK 活性は食事により影響を受けることが知られており、自然免疫賦活の観点から様々な食品成分と NK 活性との関連が研究されています。その研究として「きんかん」が取り上げられています。又、宮崎県産のピーマンは、ビタミンCが、普通のピーマンに比べ 1.3 倍含まれているそうです。これらの分析を行うにあたり、「宮崎方式」残留農薬迅速分析技術（2 時間で 430 成分を分析する）を開発されたそうです。

詳しくは http://food-research.org

出席率報告

	会員数	出席免除	出席定数	ＨＣ出席	MU	欠席	出席	出席率
前々週 11/14	35	2	33	23	10	0	33	100%
今　週	35	3	32	24	6	2	28	87.50%
出席免除	村上、古澤、渡邊							
先々週MU	榎木田、菊池、田島、豊田、野崎、日髙、古里、宮田、村社、峰松							
先取MU	菊池、清水、阿部、磯上、濱砂、榎木田							
欠　席	桑村、日髙							

事務局　〒887-0001　日南市油津 3-11-17　油津海友会館 2 階　TEL0987-22-3363・FAX0987-22-3515
会長：竹井崇利　副会長：山口秀一　幹事：山口秀一　雑誌会報広報委員長：河野通郎
雑誌会報広報委員会より　原稿は、ocame@wing.ocn.ne.jp まで送信してください。